五箇山の観光客の動向に関する研究：2019 年調査と 2015 年調査の比較を中心に [1]

A study on the trend of tourists in Gokayama: A comparison between the 2019 survey and the 2015 survey

佐藤悦夫、木下健一郎 [2]、木村建太、高田あゆ、寺田和沙
夏野敦、堀唯人、丸山貴弘、吉田光希、黄蓉、張晶

SATO Etsuo、KINOSHITA　Kenitiro, KIMURA kenta, TAKATA Ayu、TERADA　Kazusa
NATSUO　Atsushi, HORI　Yuito, MARUYAMA Takahiro, YOSHIDA kouki, HUANG Rong,
ZHANG Jing

2019 年 11 月に五箇山で観光客の動向調査を行った。この調査によると、2015 年の調査と比較して、大きく変わったのは、居住地の構成である。2015 年は、北陸新幹線が 3 月に開業し、11 月の調査時点では、やはり関東圏、特に東京からの観光客が多く五箇山を訪れていた。2019 年時点では、その新幹線効果も薄れ、比較的距離が近く、五箇山へのアクセスも容易な中部地域からの観光客が多くなった。この傾向は今後も続くと考えられる。一方、観光客の行動パターンに関しては、大きな変化はなく通過型の観光地となっている。本稿では、リピーターの増加や長期滞在型観光地になるための方策を検討した。

キーワード：　世界遺産、五箇山、北陸新幹線

１、はじめに

2015 年 3 月に北陸新幹線が開業し北陸を訪れる観光客は増加した。筆者は 2015 年 11 月に五箇山における新幹線開業後の把握するために調査を行った（佐藤、他　2016）。それから、４年経過した 2019 年 11 月に北陸新幹線開業の影響がどのように変化したのかを把握するために再び調査を行った。調査は 2019 年の学長裁量経費 2 号の助成を受け、2019 年 11 月 3 日（日）と 11 月 4 日（月）に五箇山地域の菅沼集落、相倉集落で観光客に対する対面式のアンケート調査を実施した。

五箇山における入込数の変化をみると、2014 年 707 千人、2015 年 794 千人、2016 年 778 千人、2017 年 710 千人、2018 年 670 千人と変化している（富山県観光・交通振興局観光振興

[1] ：本稿は、2019 年度学長裁量経費 2 号の報告書を加筆、修正した。
[2] ：木下健一、木村建太、高田あゆ、寺田和沙、夏野敦、堀唯人、丸山貴弘、吉田光希、黄蓉、張晶は 2019 年度佐藤ゼミ 3 年生の学生である。

課、（公社）とやま観光推進機構　2018)。2015 年は、新幹線効果で大幅に増加したが、その後は減少しているが、平均すると年間 70 万人～80 万人ほどの観光客が訪れる観光地である。

本稿の目的は、①2015 年の調査と比較しながら五箇山を訪れる観光客の行動パターンを対面式アンケート調査により把握すること、②年齢別、地域別、回数別観光客の行動パターンの特徴を把握すること、③調査結果を踏まえ、ポストコロナ社会を見据えた五箇山の新しい魅力を創出することの 3 点である。

五箇山における観光調査に関しては筆者の研究があるが、本稿でも過去の研究成果と比較しながら検討する（佐藤　2006、2009、2010、2011、2012a、2012b、2014、2015、2016)。

２、2019 年度の五箇山における観光客の全体的動向

（１）回答者の属性

2019 年 11 月 3 日（日）と 11 月 4 日（月）に五箇山地域の菅沼集落、相倉集落で観光客に対する対面式のアンケート調査を実施した。対面式アンケートの回答者総数は 389 人（菅沼集落 170 人、相倉集落 219 人）であった（表 2-1)。まず、回答者の属性を見てみると、性別では男性が 50.6%（n＝197)、女性が 47.3%　(n＝184）であった（表 2-2)。また、回答者の年齢構成は、50 歳代が 20.0%（n＝78）と最も多く、次に 40 歳代 19.7%（n＝77)、60 歳代 19.0%（n＝74）と続く。また、30 歳代は 12.3%（n＝48）と最も少ない（表 2-3)。

2015 年 10 月 31 日と 11 月 1 日のデータと比較すると回答者の年齢層では、2015 年と同じように、50 歳代が一番多く、次に、40 歳代と 60 歳代と続く。一方で、20 歳代の人が 2015 年より多くなった。

表 2-1：調査地ごとの回答者数表

	2019年の調査		2015年の調査	
調査地	人	%	人	%
相倉	219	56.2%	161	50.6%
菅沼	170	43.8%	157	49.4%
合計	389	100.0%	318	100.0%

（出所：2015 年のデータは、佐藤、他　2016）

表 2-2：男女別回答者数

	2019年の調査		2015年の調査	
性別	人	%	人	%
女	184	47.3%	141	44.3%
男	197	50.7%	177	55.7%
無回答	8	2.0%	0	0.0%
合計	389	100%	318	100.0%

（出所：2015 年のデータは、佐藤、他　2016）

表 2-3：年齢別回答者数

	2019年の調査		2015年の調査	
年齢	人	%	人	%
２０歳未満	9	2.3%	8	2.5%
２０歳代	59	15.1%	28	8.8%
３０歳代	48	12.3%	48	15.1%
４０歳代	77	19.7%	66	20.8%
５０歳代	78	20.0%	78	24.5%
６０歳代	74	19.0%	67	21.1%
７０歳代以上	38	9.7%	21	6.6%
無記入	6	1.5%	2	0.6%
合計	389	100.0%	318	100.0%

（出所：2015 年のデータは、佐藤、他　2016）

（２）回答者の居住地

訪れた観光客の居住地について富山県内が 21.6%(n=84)で県外が 73.0%(n=284)、外国が 4.9%(n=19)で、2015 年度と同様に県外観光客が圧倒的に多いという結果となった。また、2015 年度では県外のみに絞って順位付けすると関東地域からの観光客が最も

表 2-3：2019 年度調査における居住地

地域	都道府県	人	地域ごとの割合
北陸	富山県	84	33.2%
	石川県	36	
	福井県	9	
	計	129	
関東	東京都	25	19.0%
	神奈川県	24	
	埼玉県	10	
	千葉県	12	
	茨城県	1	
	群馬県	2	
	計	74	
関西	大阪府	17	12.9%
	滋賀県	6	
	京都府	9	
	兵庫県	8	
	奈良県	1	
	三重県	6	
	和歌山県	3	
	計	50	
中部	愛知県	51	20.8%
	岐阜県	18	
	静岡県	12	
	計	81	
甲信越	新潟県	5	3.1%
	山梨県	4	
	長野県	3	
	計	12	
東北	宮城県	3	1.8%
	福島県	3	
	岩手県	1	
	計	7	
四国	高知県	2	1.0%
	香川県	2	
	計	4	
中国	岡山県	1	1.0%
	山口県	1	
	広島県	2	
	計	4	
九州	佐賀県	1	1.8%
	福岡県	2	
	熊本県	4	
	計	7	
北海道	北海道	1	0.3%
	計	1	
海外	ロシア	4	4.9%
	中国	4	
	台湾	4	
	カナダ	4	
	米国	2	
	フランス	1	
	計	19	
無回答		2	0.5%
合計		389	100%

表 2-4：2015 年調査における居住地

地域	都道府県	人	地域ごとの割合
北陸	富山県	74	36.8%
	石川県	34	
	福井県	9	
	小計	117	
関東	東京都	45	25.8%
	神奈川県	17	
	埼玉県	7	
	栃木県	7	
	千葉県	3	
	群馬県	3	
	小計	82	
関西	大阪府	17	12.3%
	滋賀県	8	
	京都府	5	
	兵庫県	4	
	奈良県	3	
	三重県	1	
	和歌山県	1	
	小計	39	
中部	愛知県	18	11.0%
	岐阜県	11	
	静岡県	6	
	小計	35	
甲信越	新潟県	15	7.2%
	長野県	8	
	小計	23	
東北	宮城県	4	2.8%
	福島県	2	
	秋田県	2	
	岩手県	1	
	小計	9	
中国	広島県	2	1.6%
	岡山県	2	
	島根県	1	
	小計	5	
九州	佐賀県	2	0.9%
	宮崎県	1	
	小計	3	
四国	徳島県	1	0.6%
	香川県	1	
	小計	2	
外国	韓国	1	0.9%
無記入		2	
	小計	3	
合計		318	100.0%

（出所：佐藤、他　2016）

多く 25.8%(n=82)で、次いで関西地域が 12.3%(n=39)と 2 倍以上の差となっている。また、都道府県別にみると東京都 45 人、石川県 34 人、愛知県が 18 人となっていた。

しかし、2019 年度の調査結果を精査すると旅行者が最も多い地域は中部地域で 20.8%(n=81)となっている。次に関東地域の 18.0%(n=74)、関西が 12.9%(n=50)と続く。都道府県別では愛知県 51 人、石川県 36 人、東京都 25 人となっており愛知県から訪れる観光客の割合が増加傾向にある。また、インバウンドが 4.9%(n=19)と 2015 年の 0.9%からも増加傾向にあり、これからの増加に期待が持てる。しかし、東京都からの観光客は半分程度になっており、新幹線効果が薄れてきたことを示している。

（３）同伴者ならびに同伴者数の状況

同伴者に関しては、「家族・親戚と」と回答した人は 56.8%（n＝221）で最も多く、次に「友人と」と回答した人は 31.6%（n＝123)であった。そのほか、「自分一人で」と回答した人は 5.4%（n＝21）であった。同伴者数に関しては、「５人以下」が 88.2%（n=343）で最も多かった（表 2-6、表 2-7)。また、11 人以上のグループは、2.86%（n＝11）であり、大型観光バスを利用した団体旅行客は全体としては少ない。

2015 年のデータと比べると、大きな変化はない。

表 2-6：同伴者

	2019年の調査		2015年の調査	
自分一人で	21	5.4%	18	5.7%
家族・親戚と	221	56.8%	184	57.9%
友人と	123	31.6%	70	22.0%
学校のグループで	2	0.5%	5	1.6%
職場のグループで	6	1.5%	10	3.1%
地域などの団体で	7	1.8%	21	6.6%
その他	3	0.8%	8	2.5%
無回答	6	1.5%	2	0.6%
合計	389	100.0%	318	100.0%

（出所：2015 年のデータは、佐藤、他　2016）

表 2-7：同伴者数

	2019年の調査		2015年の調査	
1～5人	343	88.2%	242	76.1%
6～10人	8	2.1%	34	10.7%
11～15人	5	1.3%	20	6.3%
16～20人	5	1.3%	6	1.9%
21～25人	0	0.0%	0	0.0%
25～30人	0	0.0%	5	1.6%
31～35人	0	0.0%	2	0.6%
36～40人	0	0.0%	1	0.3%
41人～	1	0.3%	1	0.3%
無回答	27	6.9%	7	2.2%
合計	389	100.0%	318	100.0%

（出所：2015 年のデータは、佐藤、他　2016）

（４）訪問回数

2019 年調査における訪問回数に関しては、「初めて」が 68.4%(n=266)で 2015 年の調査結果と比べると約 10 ポイント増えて、最も多かった（表 2-8)。次に「2 回目」が 15.4%であった。一方、「3 回目」、「４回以上」の割合を 2015 年と比較すると減少している。

表 2-8：訪問回数

	2019年の調査		2015年の調査	
回数	人	%	人	%
初めて	266	68.4%	190	59.7%
2回目	60	15.4%	51	16.0%
3回目	20	5.1%	36	11.3%
4回以上	39	10.0%	39	12.3%
無回答	4	1.0%	2	0.6%
合計	389	100.0%	318	100%

（出所：2015年のデータは、佐藤、他　2016）

（５）新幹線の利用、交通手段

2019 年の調査において、近くの都市までの新幹線を利用に関しては、12.6%（n=49）が利用しており、利用した駅は富山駅 16 人、金沢駅 15 人であった（表 2-8、表 2-9）。2015 年の調査と比較すると、新幹線の利用者は減少しており、関東圏からの訪問者が減少していることと関連する。

五箇山地域を訪れる交通手段としては、「自家用車」が 67.9%（n=264）で 2015 年の調査の結果と変わらず最も多かった。次に、「レンタカー」が 13.9%（n=54）であった。一方、「観光バス」の利用人数が 2015 年の調査結果から減少していることから、自動車を利用して五箇山地域に訪れる観光客が多くなっている傾向がある。北陸新幹線を利用して訪れる観光客は、レンタカーを併用していることが考えられる。また、「世界遺産バス」の利用者には、東京・群馬といった関東圏からの観光客や、中国人観光客などが見られた。

表 2-8：新幹線の利用

	2019年の調査		2015年の調査	
新幹線利用	人	%	人	%
はい	49	12.6%	61	19.2%
いいえ	329	84.6%	256	80.5%
無回答	11	2.8%	1	0.3%
合計	389	100.0%	318	100.0%

（出所：2015年のデータは、佐藤、他　2016）

表 2-9：新幹線の利用駅

	2019年の調査		2015年の調査	
新幹線利用駅	人	%	人	%
金沢駅	15	30.6%	21	34.4%
新高岡駅	9	18.4%	7	11.5%
富山駅	16	32.7%	27	44.3%
黒部綱月温泉駅	1	2.0%	1	1.6%
無回答	8	16.3%	5	8.2%
合計	49	100.0%	61	100.0%

（出所：2015年のデータは、佐藤、他　2016）

表 2-10：交通手段

	2019年の調査		2015年の調査	
交通手段	人	%	人	%
自家用車	264	67.9%	190	59.7%
世界遺産バス	18	4.6%	15	4.7%
高速バス	7	1.8%	6	1.9%
観光バス	35	9.0%	54	17.0%
レンタカー	54	13.9%	39	12.3%
その他	5	1.3%	10	3.1%
無回答	6	1.5%	4	1.3%
合計	389	100.0%	318	100.0%

（出所：2015年のデータは、佐藤、他　2016）

（６）五箇山での滞在時間

2019 年の調査では、五箇山地域での滞在時間は、「１時間程度」が 46.3%（n=180）と最も多く、次いで「２時間程度」が 20.1%（n=78）、「30 分程度」が 19.3%（n=75）となっている（表 2-11）。

また、2015 年の調査では「１時間程度」が 50.3%（n=160）、「２時間程度」が 24.2%（n=77）、「30 分程度」が 17.6%（n=56）であった。2015 年と 2019 年の調査結果を比較すると、

2019 年の調査結果において「3~4 時間程度（半日）」や「1 日以上（宿泊）」を選択する観光客の比率が増加していることから、五箇山地域での滞在時間が少しではあるが長くなっていると考えられる。

表 2-11：滞在時間

	2019年の調査		2015年の調査	
滞在時間	人	%	人	%
30分程度	75	19.3%	56	17.6%
1時間程度	180	46.3%	160	50.3%
2時間程度	78	20.1%	77	24.2%
3~4時間程度（半日）	32	8.2%	18	5.7%
1日	4	1.0%	1	0.3%
1日以上（宿泊）	9	2.3%	3	0.9%
無回答	11	2.8%	3	0.9%
合計	389	100.0%	318	100.0%

（出所：2015年のデータは、佐藤、他　2016）

（７）五箇山での立ち寄り先

アンケートサンプル数 389 人の中で、相倉集落を訪問した客は 71.5%（n=278）、菅沼集落を訪問した観光客は 65.6 %（n=255）であった。しかし、菅沼集落で調査した 170 人の中で相倉を訪れた（訪れる予定）の人は 38.2%（n=65）であった。相倉集落で調査した 219 人の中で菅沼集落を訪れた（訪れる予定）の人は 40.6%（n=89）であり、1 日で両集落に訪れた割合は大きくなかった。

合掌集落以外で訪れた場所として村上家 7.7%（n=30）が多く、次に道の駅たいら 5.1%（n=20）である。

表 2-12：五箇山での立ち寄り先

	2019年の調査		2015年の調査	
立ち寄り先（複数回答）	人	%	人	%
相倉集落	278	71.5%	220	69.2%
菅沼集落	255	65.6%	205	64.5%
五箇山総合案内所	14	3.6%	9	2.8%
道の駅上平（ささら館）	19	4.9%	31	9.7%
岩瀬家	13	3.3%	6	1.9%
村上家	30	7.7%	15	4.7%
道の駅たいら（五箇山和紙の里）	20	5.1%	26	8.2%
その他	15	3.9%	11	3.5%

（出所：2015年のデータは、佐藤、他　2016）

（８）五箇山での消費額

五箇山で「飲食をする人」は、44.2%(n=172)で、使用する金額は１～1000 円が 51.7%(n=89)と最も多かった。また、「買い物する人」は、37.0%(n=144)で、金額は飲食と同様に１～1000 円が 47.2%(n=68)と最も多かった。

2015 年の調査では、五箇山で「飲食する人」は、55.3%(n=176)、金額としては「1000 円以下」が 51.7%(n=91)で最も多く、次いで「1001～2000 円」が 25.0%(n=44)であった。また、「買い物をする人」は、44.3%(n=141)で、金額は「1000 円以下」が 48.2%(n=68)で最も多く、次いで「1001～2000 円」が 20.6%(n=29)、「2001～3000 円」が 7.8%(n=11)であった。

表 2-12：飲食の有無表

	2019年の調査		2015年の調査	
飲食の有無	人	%	人	%
飲食する	172	44.2%	176	55.3%
飲食しない	150	38.6%	122	38.4%
無回答	67	17.2%	20	6.3%
合計	389	100.0%	318	100.0%

（出所：2015年のデータは、佐藤、他　2016）

表 2-13：飲食の金額

	2019年の調査		2015年の調査	
飲食の金額	人	%	人	%
1～1000円	89	51.7%	91	51.7%
1001～2000円	37	21.5%	44	25.0%
2001～3000円	5	2.9%	7	4.0%
3001～4000円	1	0.6%	0	0.0%
4001～	1	0.6%	1	0.6%
無記入	39	22.7%	33	18.8%
合計	172	100.0%	176	100.0%

（出所：2015年のデータは、佐藤、他　2016）

表 2-14：買い物の有無

	2019年の調査		2015年の調査	
買い物の有無	人	%	人	%
買い物する	144	37.0%	141	44.3%
買い物しない	156	40.1%	138	43.4%
無回答	89	22.9%	39	12.3%
合計	389	100.0%	318	100.0%

（出所：2015年のデータは、佐藤、他　2016）

表 2-15：買い物の金額

	2019年の調査		2015年の調査	
買い物の金額	人	%	人	%
1～1000円	68	47.2%	68	48.2%
1001～2000円	28	19.4%	29	20.6%
2001～3000円	6	4.2%	11	7.8%
3001～4000円	1	0.7%	0	0.0%
4001～5000円	7	4.9%	2	1.4%
無記入	34	23.6%	31	22.0%
合計	144	100.0%	141	100.0%

（出所：2015年のデータは、佐藤、他　2016）

（９）旅行日程

旅行日程の各項目で 2015 年と 2019 年を比較すると、「日帰り」は 45.6%(n=145)と 47.8%(n=186)で、2.2 ポイント増加している。「１泊２日」は 32.4%(n=103)と 20.6%(n=80)で、11.8 ポイント減少している。「2 泊 3 日」は 15.7%(n=50)と 24.7%(n=96)で、9 ポイント増加している。「3 泊 4 日」は 4.1%(n=13)と 3.9%(n=15)で 0.2 ポイント減少している。

「日帰り」は少し増加し、「1 泊 2 日」は大きく減少しているが、「2 泊 3 日」が大きく増加している。また、「3 泊 4 日」は減少しているが、「4 泊以上」が増加している。このような結果から、2015 年と 2019 年の旅行日程を比較すると、旅行日程が延びていることが分かる。

表 2-16：旅行日程

	2019年の調査		2015年の調査	
旅行日程	人	%	人	%
日帰り	186	47.8%	145	45.6%
1泊2日	80	20.6%	103	32.4%
2泊3日	96	24.7%	50	15.7%
3泊4日	15	3.9%	13	4.1%
4泊以上	12	3.1%	6	1.9%
無回答	0	0.0%	1	0.3%
合計	389	100.0%	318	100.0%

（出所：2015年のデータは、佐藤、他　2016）

（10）旅行動機

訪問動機は「世界遺産を見るため」が 40.1%（ｎ＝156）と 2015 年同様に最も多く、次いで「保養、休養のため」20.3%（ｎ＝79）という結果になった。「その他」の回答の中には、「紅葉を見るため」が圧倒的に多かった。それ以外にも「たまたま立ち寄ったから」「団体旅行のため」という回答がみられた。2015 年と比べると、全体的にはあまり大きな変化はないが「世界遺産を見るため」が大きく増加した。また、「知識や教養を深めるため」が唯一減少した。

表 2-17：旅行動機

	2019年の調査		2015年の調査	
訪問動機(複数回答)	人	%	人	%
保養、休養のため	79	20.3%	66	20.8%
おいしいものを食べるため	47	12.1%	36	11.3%
知識や教養を深めるため	28	7.2%	32	10.1%
家族や友達との親睦を深めるため	61	15.7%	40	12.6%
現地の人や生活に触れたくて	12	3.1%	9	2.8%
世界遺産を見るため	156	40.1%	117	36.8%
その他	88	22.6%	29	9.1%

（出所：2015年のデータは、佐藤、他　2016）

（11）満足度

全体 389 人の内 60.4%（n=235）が大変満足であると回答した。また男女別の結果においても男性 197 人中 113 人と、女性 184 人中 115 人が大変満足と回答したことから高い割合で不満がないという傾向であった。

県内は全体 84 人中、大変満足が 48 人、やや満足が 32 人、不満が 1 人で 9 割以上が満足であると回答した。一方、県外は全体 286 人中、大変満足が 169 人、やや満足が 108 人であった。

表 2-18：満足度

	2019年の調査		2015年の調査	
満足度	人	%	人	%
大変満足	235	60.4%	158	49.7%
やや満足	141	36.2%	151	47.5%
やや不満	3	0.8%	4	1.3%
不満	2	0.5%	0	0.0%
無回答	8	2.1%	5	1.6%
合計	389	100.0%	318	100.0%

（出所：2015年のデータは、佐藤、他　2016）

３、2019 年度の五箇山における観光客の年齢別、地域別、訪問回数別特徴

（１）年齢別特徴

表 3-1 は、年齢層ごとの主な行動パターンを比較したものである（表 3-1)。「20 歳未満」のグループはサンプル数が少ないので分析の対象から外す。

居住地においては、年齢ごとの大きな差異はない。訪問回数においては、2 回目以上の複数回の訪問が多いのは、「60 歳以上」のグループである。滞在時間においても、「60 歳以上」のグループが長い傾向があり、立ち寄り先も多い。

訪問動機においては、「世界遺産をみるため」という回答が、「20 歳～40 歳未満」と「40 歳～60 歳未満」のグループでは多いが、「60 歳以上」のグループでは少なく、「その他」が多い。その他の内容としては、「紅葉をみるため」と回答した人が多かった。11 月の五箇山では、「紅葉」が重要な観光資源となっている。

（２）地域別特徴

富山県内、関東、中部、海外の４グループの行動パターンを分析した（表 3-2)。訪問回数では、富山県内の観光客が距離的にも近いので複数回訪問している。また、関東、中部、海外のグループにおいても「４回以上」の訪問者がいる。

交通手段では、どのグループも「自家用車」が多いが、関東地域では「レンタカー」の使用、中部地域では「観光バス」の利用者が多かった。新幹線で富山または金沢まで来てそこからレンタカーを借りるケースが多かった。

表 3-1：年齢別特徴

	20歳未満		20歳～40歳未満		40歳～60歳未満		60歳以上	
	人	%	人	%	人	%	人	%
居住地								
県内	3	33.3%	24	22.4%	26	16.8%	29	25.9%
県外	6	66.7%	77	72.0%	116	74.8%	83	74.1%
海外	0	0.0%	6	5.6%	13	8.4%	0	0.0%
計	9	100.0%	107	100.0%	155	100.0%	112	100.0%
訪問回数								
はじめて	8	88.9%	84	78.5%	110	71.0%	60	53.6%
2回目	1	11.1%	15	14.0%	22	14.2%	20	17.9%
3回目	0	0.0%	1	0.9%	8	5.2%	11	9.8%
4回以上	0	0.0%	5	4.7%	14	9.0%	20	17.9%
無回答	0	0.0%	2	1.9%	1	0.6%	1	0.9%
計	9	100.0%	107	100.0%	155	100.0%	112	100.0%
滞在時間								
30分程度	1	11.1%	27	25.2%	21	13.5%	25	22.3%
1時間程度	6	66.7%	41	38.3%	84	54.2%	46	41.1%
2時間程度	1	11.1%	27	25.2%	32	20.6%	17	15.2%
3～４時間	1	11.1%	8	7.5%	6	3.9%	16	14.3%
1日	0	0.0%	1	0.9%	2	1.3%	1	0.9%
１日以上	0	0.0%	1	0.9%	6	3.9%	2	1.8%
無回答	0	0.0%	2	1.9%	4	2.6%	5	4.5%
計	9	100.0%	107	100.0%	155	100.0%	112	100.0%
立ち寄り先（複数回答）								
相倉	4	44.4%	79	73.8%	111	71.6%	79	70.5%
菅沼	7	77.8%	73	68.2%	90	58.1%	82	73.2%
五箇山総合案内所	1	11.1%	3	2.8%	4	2.6%	5	4.5%
道の駅上平	0	0.0%	5	4.7%	12	7.7%	2	1.8%
岩瀬家	0	0.0%	1	0.9%	6	3.9%	6	5.4%
村上家	0	0.0%	3	2.8%	13	8.4%	13	11.6%
道の駅平	0	0.0%	5	4.7%	7	4.5%	7	6.3%
その他	0	0.0%	2	1.9%	8	5.2%	5	4.5%
訪問動機（複数回答）								
保養・休養のため	2	22.2%	29	27.1%	28	18.1%	20	17.9%
おいしいものを食べるため	2	22.2%	19	17.8%	19	12.3%	7	6.3%
知識や教養を深めるため	5	55.6%	11	10.3%	5	3.2%	7	6.3%
家族、友人との親睦	1	11.1%	13	12.1%	26	16.8%	20	17.9%
現地の生活に触れたい	0	0.0%	3	2.8%	7	4.5%	2	1.8%
世界遺産を見たい	4	44.4%	50	46.7%	69	44.5%	30	26.8%
その他	0	0.0%	23	21.5%	33	21.3%	31	27.7%

注：年齢項目に無回答の6名を除く

滞在時間では、どのクループでも「２時間以内」が大部分であるが、中部地域では、「3～4 時間」の滞在も多い。

旅行日程では、富山県内の観光客や中部地域の観光客は、「日帰り」が多い。関東地域の観光客は、「１泊２日」や「２泊３日」」などの宿泊を伴う日程で旅行している。「1 泊２日」における、宿泊地としては、高山市、金沢市、高岡市、氷見市などが多い。また「2 泊 3 日」の場合は、金沢市、富山市、氷見市、白川村、などを宿泊地としている。

立ち寄り先では、どのグループでも相倉集落や菅沼集落が大部分で、周辺地域を回遊する観光客は少ない。その中でも村上家は、中部地域の観光客が比較的多く訪れている。海外のグループでは、相倉集落が多かった。

訪問動機では、富山県内の観光客では「世界遺産を見たい」という動機が他の地域よりも低く、「保養・休養ため」という動機が多い。一方、関東地域や中部地域、海外の観光客では、「世界遺産を見たい」という動機が多く、次に「家族、友人との親睦」が続く。また、関東地域や中部地域では、食に対する欲求も高い。

表 3-2：地域別特徴

	富山県		関東		中部		海外	
	人	%	人	%	人	%	人	%
訪問回数								
はじめて	31	36.9%	65	87.8%	59	72.8%	15	78.9%
2回目	25	29.8%	7	9.5%	14	17.3%	1	5.3%
3回目	8	9.5%	0	0.0%	5	6.2%	1	5.3%
4回以上	19	22.6%	2	2.7%	3	3.7%	1	5.3%
無回答	1	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.3%
計	84	100.0%	74	100.0%	81	100.0%	19	100.0%
交通手段								
自家用車	73	86.9%	37	50.0%	56	69.1%	4	21.1%
世界遺産バス	2	2.4%	4	5.4%	1	1.2%	5	26.3%
高速バス	0	0.0%	3	4.1%	2	2.5%	0	0.0%
観光バス	1	1.2%	7	9.5%	18	22.2%	0	0.0%
レンタカー	4	4.8%	22	29.7%	2	2.5%	10	52.6%
その他	2	2.4%	0	0.0%	1	1.2%	0	0.0%
無回答	2	2.4%	1	1.4%	1	1.2%	0	0.0%
計	84	100.0%	74	100.0%	81	100.0%	19	100.0%
滞在時間								
30分程度	12	14.3%	11	14.9%	15	18.5%	5	26.3%
1時間程度	36	42.9%	29	39.2%	36	44.4%	11	57.9%
2時間程度	27	32.1%	23	31.1%	10	12.3%	0	0.0%
3～４時間	4	4.8%	4	5.4%	17	21.0%	0	0.0%
1日	1	1.2%	1	1.4%	0	0.0%	2	10.5%
１日以上	1	1.2%	4	5.4%	1	1.2%	0	0.0%
無回答	3	3.6%	2	2.7%	2	2.5%	1	5.3%
計	84	100.0%	74	100.0%	81	100.0%	19	100.0%
旅行日程								
日帰り	73	86.9%	4	5.4%	50	61.7%	8	42.1%
１泊２日	7	8.3%	22	29.7%	15	18.5%	2	10.5%
２泊３日	3	3.6%	38	51.4%	15	18.5%	1	5.3%
３泊４日	1	1.2%	7	9.5%	1	1.2%	2	10.5%
４泊以上	0	0.0%	3	4.1%	0	0.0%	6	31.6%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	84	100.0%	74	100.0%	81	100.0%	19	100.0%
立ち寄り先（複数回答）								
相倉	58	69.0%	56	75.7%	56	69.1%	19	100.0%
菅沼	59	70.2%	45	60.8%	63	77.8%	1	5.3%
五箇山総合案内所	1	1.2%	2	2.7%	6	7.4%	0	0.0%
道の駅上平	7	8.3%	0	0.0%	4	4.9%	0	0.0%
岩瀬家	6	7.1%	1	1.4%	1	1.2%	0	0.0%
村上家	6	7.1%	2	2.7%	13	16.0%	0	0.0%
道の駅平	6	7.1%	6	8.1%	5	6.2%	0	0.0%
その他	3	3.6%	0	0.0%	2	2.5%	0	0.0%
訪問動機（複数回答）								
保養・休養のため	24	28.6%	10	13.5%	16	19.8%	0	0.0%
おいしいものを食べるため	8	9.5%	13	17.6%	12	14.8%	0	0.0%
知識や教養を深めるため	2	2.4%	5	6.8%	3	3.7%	2	10.5%
家族、友人との親睦	11	13.1%	18	24.3%	11	13.6%	3	15.8%
現地の生活に触れたい	0	0.0%	4	5.4%	1	1.2%	3	15.8%
世界遺産を見たい	25	29.8%	39	52.7%	37	45.7%	10	52.6%
その他	25	29.8%	7	9.5%	19	23.5%	6	31.6%

（３）訪問回数別特徴

2019 年調査における訪問別特徴を分析した（表 3-3)。「２回以上訪問したグループ（リピーター)」と「はじめて訪れた人」のグループに分けて、それぞれの行動パターンの特徴を把握した。

「はじめて訪れた人」においては、が県外の割合が多いのは言うまでもないが、「リピーター」においても 53.8％が県外の観光客であった。

また、滞在時間や立ち寄り先においては、リピーターの方が多い。

訪問動機においては、「リピーター」のほうが「世界遺産を見たい」という動機が 27.7％と

「はじめて訪れた人」の 45.5%と比較して大きく減少する。これは、2015 年の調査でも同様の現象がみられる。

表 3-3：訪問回数別特徴

	2019年調査 リーピーター (n=119)		2019年調査 はじめて訪れた人 (n=266)		2015年調査 リーピーター (n=126)		2015年調査 はじめて訪れた人 (n=190)	
	人	%	人	%	人	%	人	%
居住地								
県内	52	43.7%	29	10.9%	62	49.2%	11	5.8%
県外	64	53.8%	222	83.5%	64	50.8%	178	93.7%
海外	3	2.5%	15	5.6%	0	0.0%	1	0.5%
計	119	100.0%	266	100.0%	126	100.0%	190	100.0%
滞在時間								
30分程度	15	12.6%	58	21.8%	22	17.5%	34	17.9%
1時間程度	56	47.1%	122	45.9%	69	54.8%	91	47.9%
2時間程度	31	26.1%	47	17.7%	24	19.0%	51	26.8%
3～４時間	10	8.4%	22	8.3%	10	7.9%	8	4.2%
1日	2	1.7%	2	0.8%	0	0.0%	1	0.5%
１日以上	2	1.7%	7	2.6%	0	0.0%	3	1.6%
無回答	3	2.5%	8	3.0%	1	0.8%	2	1.1%
計	119	100.0%	266	100.0%	126	100.0%	190	100.0%
立ち寄り先（複数回答）								
相倉	88	73.9%	187	70.3%	99	78.6%	119	62.6%
菅沼	77	64.7%	175	65.8%	67	53.2%	137	72.1%
五箇山総合案内所	1	0.8%	13	4.9%	3	2.4%	6	3.2%
道の駅上平	11	9.2%	8	3.0%	15	11.9%	16	8.4%
岩瀬家	5	4.2%	7	2.6%	3	2.4%	3	1.6%
村上家	12	10.1%	18	6.8%	2	1.6%	13	6.8%
道の駅平	9	7.6%	11	4.1%	18	14.3%	8	4.2%
その他	8	6.7%	6	2.3%	6	4.8%	5	2.6%
訪問動機（複数回答）								
保養・休養のため	30	25.2%	49	18.4%	44	34.9%	50	26.3%
おいしいものを食べるため	16	13.4%	31	11.7%	15	11.9%	33	17.4%
知識や教養を深めるため	7	5.9%	21	7.9%	13	10.3%	23	12.1%
家族、友人との親睦	21	17.6%	38	14.3%	23	18.3%	31	16.3%
現地の生活に触れたい	5	4.2%	7	2.6%	1	0.8%	9	4.7%
世界遺産を見たい	33	27.7%	121	45.5%	42	33.3%	97	51.1%
その他	33	27.7%	54	20.3%	20	15.9%	20	10.5%

４、まとめ

2015 年の調査と比較して、大きく変わったのは、居住地の構成である。2015年は、北陸新幹線が3月に開業し、11 月の調査時点では、やはり関東圏、特に東京からの観光客が多く五箇山を訪れていた。2019年時点では、その新幹線効果も薄れ、比較的距離が近く、五箇山へのアクセスも容易な中部地域からの観光客が多くなった。この傾向は今後も続くと考えられる。

次に、リピーターを増やすための課題を検討したい。現状では、リピーターとして再訪する観光客の多くは、「世界遺産を見たい」という動機より、四季折々の合掌集落周辺の景観、特に秋の「紅葉」を見たいという動機で五箇山を訪れている人が多い。五箇山は、合掌集落だけでなく周辺の山々を含めて保存活動を行っているので、春の新緑、秋の紅葉、冬の雪などは重要な観光資源であることは言うまでもない。また、南砺市観光協会を中心とした首都圏でのプロモーション活動、ライトアップや「こきりこ祭り」などのイベントによって新規の観光客の誘客には一定の成果をあげている。

しかし、リピーターを増やすためには世界遺産としての五箇山の魅力を高める必要がある。アンケート結果からもリピーターの人々の訪問動機において「世界遺産を見たい」という動機は、2015 年の調査同様に大きく減少している。この問題を解決するためには、世界遺産、五箇山としての魅力の向上が必要である。そのために次の点を提案したい。

① 博物館施設の充実

現在、五箇山には民俗資料館や煙硝の館などの博物館的施設があるが、展示内容を充実する必要がある。道具の展示だけでは当時の生活の様子が伝わりにくい。少なくとも当時の生活様式がわかるような写真の収集や展示 [3]、また現在までの民俗学的調査の成果（石田　2002、佐伯　2002、小坂谷　2002a 2002b）に基づく定期的な学術シンポジウムの開催、さらに可能であれば VR や AR を使った新しい展示の開発などが必要であろう。現在、岩瀬家や村上家に置かれている様々な道具類の学術調査や総合的な展示、また多言語の解説文などの作成も必要と思われる。

② 五箇山全体の回遊性の向上

五箇山全体の回遊性を向上させるためには、それぞれの地域の観光資源としての内容を充実させると同時に、公共交通機関を利用して訪れる観光客の移動手段の確保、例えば電動自転車のレンタルなどが必要である。また、回遊のインセンティブを与えるための仕掛けづくりも必要であろう [4]。

③長期滞在者の誘客

現在、五箇山の宿泊施設としては温泉付きホテル様式の「五箇山荘」、合掌家屋の民宿、低料金のゲストハウス、自炊可能な一棟貸しの合掌家屋などがあり用途別に利用できる。今後は、五箇山に長期滞在した場合の活動メニューを作ることが必要と思われる [5]

④食の充実

五箇山の食としては、イワナ、山菜、五箇山豆腐を食材とした料理が提供されている。特に、イワナ料理に関しては、通常のイワナの塩焼き以外に、イワナの刺身や寿司などの新しい料理法が作られ人気となっている。今後は、イワナ料理に磨きをかけると同時に、五箇山豆腐を食材とした新しい料理、100％五箇山のそば粉を使ったそば料理、ジビエ料理なども期待される。また、若い女性をターゲットとした場合は、五箇山らしいスイーツの開発なども求められる。

2020 年に発生した新型コロナウイルスの感染の拡大は日本だけでなく世界中の観光地や観光産業に多くの影響を与えた。ポストコロナ社会の五箇山の観光は、インバウンド需要を取り込みながら、写真をとるだけの観光地からの脱却、五箇山のサポーターのような観光客の誘致、何回訪れても魅力の薄れない観光地となるような施策が必要である。

---

[3] 写真集としては、宮崎重美・池端滋 1974、柴田英司 2006、曽我忍 2009 などの出版がある。

[4] 例えば、ガイドブックを兼ねる五箇山パスポートのような本に、多色刷りのスタンプを押し指定された地域を踏破すると、多色刷りの合掌家屋の絵が完成するような仕掛けとか、合掌家屋のパーツを集めることにより指定された地域を踏破すると合掌家屋あるいは合掌集落が完成するような仕掛けが考えられる。

[5] 時期によっては、萱刈などを手伝うボランティア的プログラム、和紙などの伝統的産業を学ぶプログラムなどが考えられる、また一棟貸しの合掌家屋では、夏の別荘として家族で滞在し五箇山を楽しむプログラムや非日常的な空間に身を置きながら仕事するワーケーションの場としての活用も考えられる。

参照文献

石田外茂一
2002 『五箇山民俗覚書』
小坂谷福治
2002a 『奥五箇山の村』上平村教育委員会
2002b 『五箇山の民俗史』上平村教育委員会
佐藤悦夫
2006 「五箇山地域の観光に関する一考察」『富山国際大学 国際教養学部紀要』Vol. 2 , PP.81-94、富山国際大学
2009 「富山県五箇山地域の観光客動向に関する一考察」『富山国際大学 現代社会学部紀要』第 1 巻、PP.161-190、富山国際大学
2010 「富山県五箇山地域の観光客動向に関する一考察：2009 年調査を中心に」『富山国際大学 現代社会学部紀要』第 2 巻、PP.147-178、富山国際大学
2011 「富山県五箇山地域の観光客動向に関する一考察：2010 年調査を中心に」『富山国際大学 現代社会学部紀要』第 3 巻、PP.103-137、富山国際大学
2012a 「世界遺産・五箇山の観光の現状と課題」、中島恭一・田広林監修、東アジア交流プロジェクト編『東アジアの交流と地域の発展』、pp.237-257、桂書房
2012b「世界遺産・五箇山地域の観光資源の保全と活用に関する考察」『第 23 回全国学術研究大会 発表要旨』pp.17-20
2014 「観光資源としての世界遺産～平泉と五箇山の比較」『富山国際大学現代社会学部紀要』第 6 巻、pp.75-86 富山国際大学
2015 「外国人の見た五箇山と白川郷～観光地としての魅力の検討～」『富山国際大学現代社会学部紀要』第 7 巻 pp.63-62 富山国際大学
佐藤悦夫、今井雪乃、佐野里穂、野村彩乃、松木峰音、宮崎春奈、森本絵里香
2016 「北陸新幹線開業後の五箇山地域における観光客の動向および大学生の視点から見た五箇山の新しい魅力に関する一考察」『富山国際大学現代社会学部紀要』第 8 巻 pp.35-44 富山国際大学
佐伯安一
2002『富山民俗の位相』桂書房
柴田英司
2006 『愛しの合掌集落』桂書房
曽我忍
2009 『越中五箇山アーカイブス：1965-1967』
富山県観光・交通振興局観光振興課、（公社）とやま観光推進機構
2018 「平成 30 年富山県観光客入込数等（H.30.1.1～H30.12.31）」
宮崎重美・池端滋
1974 『五箇山：失われる山人の暮らし』巧玄出版